



～ 社訓＊誠実 ～ 社長室だより



2018年10月末号

9月の一五夜はあいにくの天候でしたが10月の一三夜（この時期収穫される栗をお供えする風習から栗月とも言うらしい）から一六夜までの4日間は本当に美しい月でした。みなさん見上げてみましたか？澄みきった夜空に煌々と光り輝く月を見て深呼吸をしてみると心が落ち着いてくるのを感じました。心穏やかに自分のなすべき事や家族の事をあれこれ思い描きました。

10月20日は父の92回目の誕生日でした。2年前から入退院が増えてしまい、それまでは老夫婦二人で毎月三浦半島にあるマホロバ温泉ホテルに行くのを楽しみにしていましたが行けなくなり、入浴もシャワーだけの日々でしたので二人がまだかるうじて杖ついてでも歩けるうちにと誕生日に車に乗せて週末1泊旅行を計画したのです。車に二人で載せると認知が進んだ母は父に「何処行くの？」父は「マホロバ」を何度も繰り返し、いざホテルへ着くと「私、ここ来たような気がする。」「ここ私初めてじゃないわよね」と。私はめんどくさいので一切返事せず、淡々と風呂に入る支度してやり過ごすが、くどくど繰り返されるかみ合わない会話を父も母もある種楽しんでいるようだ。2年ぶりの温泉で喜んだかと思ったら湯船に首までつかるとドキドキするからもういい。と二人とも1回しか入らない。私はせっかくの温泉だもの3回入浴した。

「誕生日」と言う事でホテルから記念写真撮影とお菓子のプレゼントを受けとる。親子3人の旅など私が小学校の時の大阪万国博以来だ。夕飯はバイキング。父とビールで乾杯。料理をてんこ盛りでとってきてテーブルに置くと全てたいらげた。これには驚愕。母も同様に私以上の食欲。「すごいね～」と私。「あら、良く食べるから元気なんじゃない！」と母はケロリ。戦争を切りぬけて来た人は生きることに食欲。帰りの車の中でも景色を見ながら老父母の会話は止まることなく、半分は同じ事の繰り返しであったが、久々の外出を楽しんでいるようだった。自己満足の為に企画した旅行だったかな？と思ったが「親孝行、しようと思った時には親はなし」ではと、しかし翌日のデイサービスで母に「マホロバ楽しかったですか？」と聞いた職員に母は「私、もう何年も行ってないんです」と答えたと言う。父も車の送迎中にちょっとしたことで口論になった時に「お前を憎たらしいとしか思えないが！」と言われた。「親の心子知らず、この心親知らず」とはよく言ったものだ。それでも翌日はいつもどおりの日常に。皆さんは親子の時間を楽しんでますか？一緒に月を見るだけでも親はほっこりすると自分が親になると感じるものですが。いかがでしょうか？



11月の誕生日



11月5日 高野工場長

11月1日 小林平塚所長

11月10日 平塚 古川進

11月21日 本社 片岡恒二 おめでとう！！